

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 心身ともに健全でたくましく、もっと知りたいという好奇心を持ち、将来の目標に向かって積極的に学び続ける生徒を育成する。 (2) 社会を構成する一員としての協働性やコミュニケーション力を養い、他者への思いやりを忘れず、社会の秩序を守り、自己の責任を果たそうとする生徒を育成する。 (3) 課題解決に向けた探究力を身につけ、郷土に誇りを持ち、主体的に未来を切り拓く、地域社会に貢献できる生徒を育成する。	学校整理番号	19
(2) 現状と課題	地元中学校の学力上位の生徒は市部の高校や私立高校に進学する。さらに周辺地域中学校の生徒数が年々減少しており、定員に満たない状況が続いている。本校生徒は町主催の行事やボランティア活動に積極的に参加したり、地元議員らを招き、地域活性化をテーマにした「総合的な探究の時間」成果発表会を開催するなど、地域との関係は良好である。相手のことを考えた言動ができること、多様な学力の生徒がいる中で基礎学力を定着させること、生徒一人一人が希望する進路を実現することが課題である。	学校名	青森県立野辺地高等学校
(3) 重点目標	1 少人数教育による学習指導・教職員研修の充実	全日制の課程	校舎
	2 生徒指導・教育相談の充実	自己評価実施日	令和8年1月19日(月)
	3 キャリア教育・健康教育の充実	学校関係者評価実施日	令和8年2月5日(木)
	4 職場環境の整備－働き方改革の推進と非違行為の根絶		
	5 地域との連携－地域・保護者・教職員の総力による教育活動の展開		
(4) 結果の公表	保護者及び職員による学校評価アンケートは学校HPで公開している。	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 学校関係者評価には学校運営協議会委員をあてている。 なお学校関係者評価者の7名の構成は以下のとおりである。 教育関係者から1名 地域関係者から4名 本校同窓会から1名 本校PTAから1名	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	少人数教育による学習指導・教職員研修の充実	①「何ができるようになるのか」を明確にした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。 ②「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点からの授業実践。 ③研修によるスキルを高めるための自己啓発。	・多くの先生方の授業実践に工夫が見られ、少人数教育の利点が発揮されていた。 ・総探の成果の一つとして、町議会議員から内容を評価された探究発表があった。 ・令和10年度の遠隔教育の実施、及び生徒数の減少に伴い、教育課程の見直しを行った。	B	・互見授業の効果が良いので、次年度も効果が上がるようにつなげて欲しい。 ・小規模校のメリットを生かし、管理職自ら生徒と個人面談してはどうか。 ・少人数の強みを生かし、一人一人の力を見極めて伸ばす指導を中学校にPRしてはどうか。 ・人間関係等を考慮したクラス分けができるよう、クラスを2クラスに分けた方がいい。	・生徒の学習意欲の向上と学習効果・学習内容の定着は比例しない場合もあるため、さらなる授業改善や工夫が必要。 ・校外研修の参加を促す方策を検討し、実践する。 ・互見授業を含めた校内研修を充実させ、生徒数が少ないことを生かし、多様な生徒に対応した授業方法の研究を推進する。
2	生徒指導・教育相談の充実	①家庭との信頼関係を基に、いじめ、問題行動及び不登校の未然防止・早期発見・早期対応。 ②積極的に清掃活動、容儀・挨拶を大切に、5分前行動のできる生徒の育成。 ③生徒会活動の促進。	・授業等での生徒観察、教員間コミュニケーションの日常化により、良好な人間関係構築ができた。 ・小さな生徒間トラブル、教師・生徒間トラブルの把握並びに初期段階の適切な対応ができた。 ・生徒の問題行動については、指導期間及び事後の丁寧な指導により教育効果を高めた。 ・校則や委員会の見直しを生徒会主体で実施した。	B	・情報リテラシーの言及がなかったが、SNSへの投稿や詐欺被害、親のお金の課金などについて、必要ではないか。 ・いじめ動画の拡散が問題となっているが、本校でSNS関係の問題は起こっていない。校内でのスマホ使用禁止により防いでいるところがあるので、保護者に説明して継続して欲しい。	・悩みを抱える生徒の問題解決のために、外部機関（SC、SSW等）の積極的活用を進める。 ・多様性に順応したルールメイキングを、生徒・保護者・地域と推し進める。 ・今後も生徒会を活用して情報モラル教室を継続していく。
3	キャリア教育・健康教育の充実	①地域の協力を得ながら、社会的・職業的自立を促し、生徒一人一人の進路志望を実現。 ②生命を慈しみ、他者を思いやる心を育成と、健全な生活を営む能力と態度を育成。	・生徒の「なりたい自分」を想起した進路指導・キャリア教育が計画的に実施できた。 ・定期的並びに適時に進路だより、保健だよりを通じた生徒・保護者への情報発信ができた。 ・学校行事、講演会等を実施した後のアンケートから、生徒の意識の変容が見られた。	B	・少人数の中、岩手大学1名の他4年制大学5名合格、日本原燃4名内定は大成功だと思う。 ・平常講習や長期休業中の講習を行っており、結果を出していることは中学生にPRすべきである。	・次年度より野辺地町による短期講座が廃止となるため、夏・冬季休業中の講習について方針を決定する。 ・アンガーマネジメント、ストレスコーピング、心の教育（自殺予防）等について、教育する機会を作る。
4	職場環境の整備－働き方改革の推進と非違行為の根絶	①心理的安全性を確保し、教育成果を最大限に発揮できる環境づくり。 ②業務内容とワークライフバランスの見直し。 ③教育公務員としての使命と責任、そして誇りを常に意識した法令遵守を徹底。	・職員のワークライフバランス推進目標、イクボス宣言を掲げ、教職員の休暇取得を奨励した。 ・学校のPR、自治体との連携推進、生徒の活躍の場の拡大等、新たな取組は教職員の負担増につながる一方、負担を減らす取組に新しい発想がなかった。 ・教職員に対し、法令遵守について時機を見た注意喚起に努め、重大違反、重大事態を未然に防ぐことができた。	B	・今年度の反省点を踏まえ、教職員のより良い職場環境の整備のために管理職にもっと頑張っていたきたい。	・少人数教育の利点を少ない教員数でも賄える組織づくり、体制づくりが必要。 ・担任業務や分掌業務、学習指導や生徒指導・支援業務を細かく見直し、削減・軽減につなげる。 ・引き続き、服務規律の確保に向けた校内研修を推進する。
5	地域との連携－地域・保護者・教職員の総力による教育活動の展開	①地域・保護者への積極的な情報発信。 ②地域資源の活用と、地域と連携した教育活動の推進。	・学校HPの更新並びに学びポケット等の活用により、適時・的確な情報発信をすることができた。 ・学校運営協議会の熟議から生まれたPRポスターの掲示及び更新を適切に行った。 ・町の野辺地高校魅力化推進事業により、教育活動を支援していただいた。 ・町の広報やホームページを活用し、学校の様子を外部に発信した。 ・探究活動発表会に町の有識者を招いたり、地域と合同で避難所開設訓練を行うなど、地域と連携した教育活動を実施した。 ・ボランティアサークルが主体となり、地域の様々なボランティア活動に参加した。	B	・町の有識者を招いての探究活動の発表会は、斬新な内容があり、準備等も頑張っている様子が見られた。褒めたときの笑顔が忘れられず、次の頑張りにつながるもので、もっと生徒を褒めて欲しい。非常に良かった。 ・昨年度より図書館の利用が増えたことについて、良かったところはこれからも伸ばし、町の広報にも掲載してもいいのでは。文化祭での図書紹介ポスターが良かった。	・学校運営協議会の熟議から生まれたPRポスターの掲示及び更新を適切に行った一方で、このことのPR不足があった。 ・地域学校協働活動で地域と学校の連携の「見える化」について検討して実施する。 ・生徒数が減少する中で、ボランティア、国スポ、祇園まつり等、町との連携のあり方とその体制づくりが課題である。 ・町の広報の活用他、近隣中学校に対し本校の魅力についてのPRを進めていく。

(11) 総括	・少人数教育を生かし、「何をどのように学ぶか」の視点から、生徒の学力向上と意識の高揚を図ることに取り組んできた。 ・少人数のきめ細やかな学習指導、キャリア教育、生徒支援による多様な進路目標達成などのアピールポイントを明確にし、近隣中学校へのPR活動を進めていきたい。 ・令和9年度より募集人員が40名(予定)となり教員配置数が削減となることを踏まえ、令和8年度中に問題点を指摘し、対策を講ずる必要がある。
---------	--